

群 教 セ	G05 - 07
	平14.207集

# 作品の見方や感じ方の幅を広げる 図画工作科鑑賞指導の工夫

- 作品のよさ、美しさ、面白さを  
交換し合う活動を取り入れて -

特別研修員 名達 英詔 (新里村立北小学校)

## 研究の概要

本研究は、鑑賞において、お互いが見つけた、作品のよさ、美しさ、面白さを交換し合う活動を取り入れることにより、一人一人の見方や感じ方の幅を広げようとするものである。

具体的には、見つめる過程で鑑賞して見つけた作品のよさ、美しさ、面白さを書いた付箋紙<sup>ふせんし</sup>を出し合い、似ているものや違うもので仲間分けしたり、広げる過程で仲間分けの結果を発表し合い、多様な見方や感じ方を知り、再度作品を見直す鑑賞である。

【キーワード：図画工作 鑑賞指導 小学校 見方 感じ方】

## 主題設定の理由

今日、子どもたちを取り巻く環境は様々なメディアによる情報であふれている。これからの子どもたちには、そうした情報の中から、潤いのある豊かな生活を営むために必要なものを自分の感覚でとらえ、生活に生かしていくことが求められている。情報の中には、美術館や街角に展示してある美術作品、写真集、本のさし絵や広告等、制作者のメッセージを発信していたり、見るものの心を和ませてくれたりする造形作品も含まれており、そうした造形作品の形や色、それらの組合せの感じの美しさや、動きの面白さ、表し方の工夫といった作品のよさに対する子どもたちの感覚を高めていくことが大切である。こうした感覚を高めていくために、気に入ったところやいろいろな表し方の違い、材料の組合せによる感じ方の違いに気づきながら関心を持って作品を見られるようになるとともに、作品の見方や感じ方の幅を広げ、様々な視点から作品を見ることができるようになることが必要である。

本校の子どもたち(3年生)の多くは造形作品を見るのが好きである。図工の時間においては、製作途中の友達の作品を見て回り、気に入った技法や表現を見つけ、自分の制作の参考にしたり、気に入った作品についての感想を話している。学校内に展示されている他学年の作品に興味をひかれ立ち止まって見たり、図工の教科書を広げ参考作品を楽しそうに眺めたりする様子も見られる。子どもたちのつぶやきを聞いてみると、「これはクレヨンをこすったから不思議な色ができたんだね。」「この部品は丸く並べるときれいだよ。」というように色の出し方や構成などから作品の美しさを感じたり、「面白い形だ、雲みたい。」「ここは握ると動くんだよ。」と言ったように、形や動きなどから面白さを感じたりしている様子がうかがえる。

子どもたちの今までの図画工作科の学習を振り返ってみると、1年生のときから鑑賞の授業として友達の作品をじっくり見る経験はあまりなかった。そこで、3年生になってから、参考となる製作途中の作品を随時取り上げ、そのよい点を子どもたちに紹介したり、お互いの作品を鑑賞する場面を取り入れてきた。子どもたちにとって、作品を見る視点を知り、そのよさや美しさ、面白さに気づくことは新鮮な経験となり、作品を鑑賞することに対する興味や関心が持てるようになった。

このように、作品の気に入ったところやいろいろな表し方の違い、材料の組合せによる感じ方の違いに関心を持ちながら作品を見られるようになってきた子どもたちではあるが、いまだに仲の良い友達同士お互いの感想をつぶやくことはあっても、その感想をより多くの友達に広めることまではできていない。このような子どもたちの感覚をより高めていくために、お互いが見つけた作品のよさや美しさ、面白さといった点について交換し合い、様々な見方や感じ方があることを知ることが大切であると考えた。このことを通して、自分の見方や感じ方を見つめ直ししながら、その幅を広げ、子どもたちが様々な視点から作品を見られるようになるための素地を養うことができると考えた。

そこで作品を鑑賞し、それぞれが見つけたよさや美しさ、面白さを付箋紙に書いて出し合ったものを似ているものや違うもので仲間分けしながら交換し、その後、もう一度作品を鑑賞しなおす。この活動を通して子どもたちは、自分の見方や感じ方を見つめ直しながら、多様な見方や感じ方を知ることができ、その幅を広げることができると考え本主題を設定した。

### 研究のねらい

鑑賞において、作品のよさ、美しさ、面白さを交換し合う活動を行うことで、子どもたちは多様な見方や感じ方を知ることができ、一人一人の子どもたちが作品の見方や感じ方の幅を広げることができることを実践を通して明らかにする。

### 研究の見通し

- 1 見つめる過程において、それぞれが見つけた作品のよさ、美しさ、面白さを仲間分けしながら交換し合う活動を取り入れれば、子どもたちが、自分や友達の見方や感じ方を見つめ直しながら、多様な見方や感じ方を知ることができるであろう。
- 2 広げる過程において、仲間分けした作品のよさ、美しさ、面白さを発表し合う活動を取り入れれば、一人一人の子どもがそのよさを分かり合えるとともに、多様な見方や感じ方で作品を見直すことができ、作品の見方や感じ方の幅を広げることができるであろう。

### 研究の内容と方法

#### 1 研究の内容

##### (1) 「一人一人の作品の見方や感じ方の幅を広げる」とは

子どもたち一人一人が自分の見方や感じ方を見つめ直しながら、色の出し方や構成、材料や技法の違い、形や動きなどによる、その作品のよさや美しさ、面白さを見つけたり感じたりするために、新たな視点から作品を見られたり、同じ視点でも初めより深く感じられたりできるようになることである。

##### (2) 「作品のよさ、美しさ、面白さを交換し合う活動」とは

自分の見方や感じ方を見つめ直しながら、多様な見方や感じ方を知り、その幅を広げていくために、お互いが見つけた作品のよさ、美しさ、面白さを伝え合い、理解し合い、認め合う活動である。具体的には、次の二つである。

##### 作品のよさ、美しさ、面白さを仲間分けする活動

友達が作った造形遊びの作品を鑑賞し、それぞれが見つけたよさ、美しさ、面白さをを書

いた付箋紙を出し合い、似ているものや違うもので仲間分けすることで、自分や友達の見方や感じ方を見つめ直しながら知る活動である。

### 作品のよさ、美しさ、面白さを発表し合う活動

仲間分けした作品のよさ、美しさ、面白さをクラス内で発表し合うことで、より多くの見方や感じかたを知るとともに、それらを意識しながら再度作品を見直し、見方や感じ方の幅を広げる活動である。

## 2 研究の方法

### (1) 授業実践計画

対象 教科	新里村立北小学校 3年1組 25名 図画工作科 題材名「ドキドキワクワク探検隊」 ～作品はみんなの宝物～	抽出児童 K：友達と見つけあった作品のよさ、美しさ、面白さを交換し合う中で自分の見方や感じ方が認められることにより、自分の考えに自信を持つことができ、意欲的に鑑賞活動が出来るようになることと、鑑賞の視点を増やすことが出来ると思った。 Y：作品を見ることに興味があることを生かし、友達と見つけあった作品のよさ、美しさ、面白さを交換する中で自分の感想が認められることにより、自分の見方や感じ方をいかにした感想を表現する意欲が生まれるとともに、見方や感じ方の幅を広げることができると考えた。
期間	期間 平成14年10月30日 2時間	

### (2) 検証計画

見通し	検証の観点	検証方法
1	見つめる過程において、グループごとに友達が作った造形遊びの作品を鑑賞し、それぞれが見つけた作品のよさ、美しさ、面白さを付箋紙に書いて出し合ったものを、似ているものや違うもので仲間分けしながら交換し合う活動を取り入れたことは、子どもたちが、自分や友達の見方や感じ方を見つめ直しながら、多様な見方や感じ方を知るために有効であったか。	観察(発言、つぶやき、表情、活動の態度) ワークシートの内容分析 VTRによる観察
2	広げる過程において、グループごとに仲間分けをした作品のよさ、美しさ、面白さををクラス内で発表し、一人一人の子どもがその良さを分かり合い、多様な見方や感じ方を意識しながら作品を見直す活動を取り入れたことは、子どもたちの見方や感じ方の幅を広げるために有効であったか。	観察(発言、つぶやき、表情、活動の態度) ワークシートの内容分析 VTRによる観察

## 研究の展開

研究の見通しに基づき、以下のように授業実践を行い、検証する。

### 1 題材名及び題材の内容

題材名	「ドキドキワクワク探検隊」 ～作品はみんなの宝物～
題材の内容	本題材はまず、友達が作った造形遊びの作品を宝物に見立て、自ら選んだ作品の良さ、美しさ、面白さを探す探検隊としてグループを作り、鑑賞探検に出かける。次に、それぞれの見方や感じ方で見つけた作品の良さ、美しさ、面白さを付箋紙に書いてワークシートの上に出し合い、似ているものや違うもので仲間分けをしたり、その結果を探検発表会としてクラス内で発表しながら交換し合う。最後に、交換し合う活動を通して知った多様な見方や感じ方を意識しながら作品を見直すものである。子どもたちは、見つめる過程で互いの見方や感じ方をより意識しながら作品のよさ、美しさ、面白さを分類する事で、様々な見方や感じ方があることを知り、広げる過程で多様な見方や感じ方の良さを分かり合いながら作品を見直す活動を行うことで、見方や感じ方の幅を広げることができると考える。

### 2 題材の目標及び評価規準

目標	友達が作った造形遊びの作品を鑑賞し、お互いに出し合った作品のよさ、美しさ、面白さを似ているものや違うもので仲間分けしたりそれを発表し合いながら交換し、様々な見方や感じ方があることを知るとともに、一人一人の子どもがその良さを分かり合い、多様な見方や感じ方を意識しながら作品を見直すことにより、子どもたちの見方や感じ方の幅を広げる。	
評価	おおむね満足できる状況	十分満足できる状況
	造形への関心・意欲・態度	
規準	友達の作品のよさ、美しさ、面白さに目を向け、関心を持って見ようとする。	いろいろな見方や感じ方で友達の作品の良さや美しさ、面白さを味わおうとする。
	鑑賞の能力	
	友達と作品のよさ、美しさ、面白さを交換する活動を通し、様々な見方や感じ方があることを知ることができる。	友達と出し合った作品のよさ、美しさ、面白さを共通な点や違う点を考えながら仲間分けし、造形要素とかわらせないながら様々な見方や感じ方で作品を見ることが出来る。



ひろげる	2	30分		賞賛をする。他のグループの発表に耳を傾け、印象に残った発表をメモすることができ、十分満足できる状況とするキーワード ・理解を深めながら ・要点を押さえながら ・主体的に努力を要する児童への手だて ・作品を見ながら発表を聞くよう促し、発表を聞き取るよう促す意欲を高めるよう図る。	れたから気づけるよう話をしながら導く。グループの発表から要点を理解しながら発表をメモすることができる。十分満足できる状況とするキーワード ・自分の視点から理由を考えながら努力を要する児童への手だて ・発表の要点はどこかを教師と共に作品を見ながら話し合い、理解を促す。 Kへの支援 ・事前に仲間分けの理由をしっかりと聞き取るように話し、見方や感じ方の違いを理解できるよう促す。 ・作品を見ながら発表を聞くよう話し、視覚的に理解が深まるよう図る。 Yへの支援 ・事前に仲間分けの理由をしっかりと聞き取るように話し、見方や感じ方の違いを理解できるよう促す。 ・作品を見ながら発表を聞くよう話し、視覚的に理解が深まるよう図る。	の記内らすのか析る。ト録容分る。
	15分	多様な感覚や意識がに作られた作品のよさを、見つけたい。自分や友達の作品を鑑賞し、感想を書くことができる。十分満足できる状況とするキーワード ・品鑑分す ・作品のよさを、見つけたい。自分や友達の作品を鑑賞し、感想を書くことができる。十分満足できる状況とするキーワード ・品鑑分す ・作品のよさを、見つけたい。自分や友達の作品を鑑賞し、感想を書くことができる。十分満足できる状況とするキーワード	気に入った作品を鑑賞し直し、よさ、美しさ、面白さについて感想を書くことができる。十分満足できる状況とするキーワード ・意欲的に課題意識を持って ・多様な見方、感じ方で努力を要する児童への手だて ・急ぐことなく作品をじっくり見つけられるよう促す。 ・印象に残った友達の見方や感じ方を参考にしよう助言する。 Kへの支援 ・自分の見方や感じ方をもとに感想を書けることを賞賛し、進んで鑑賞できるよう促す。 Yへの支援 ・気に入った作品をじっくり選ぶ姿勢を賞賛し、鑑賞への意欲が持てるよう支援する。	気に入った作品を見つけ、そのよさ、美しさ、面白さに視点を当てながら、自分の見方や感じ方を鑑賞し直し、感想を書くことができる。十分満足できる状況とするキーワード ・その理由を考えながら造形要素と関連させ ・多様な見方、感じ方で自分の見方や感じ方を大切にしながら努力を要する児童への手だて ・どうしてその作品をえらんだのか理由を聞いていくことで、子供が自分なりの見方や感じ方に気づいて行けるよう図る。 Kへの支援 ・感想が書けたことに対する賞賛を行い、自信を持たせる。 Yへの支援 ・なぜその作品を選んだのかを教師と話し合い、その理由を生かしながら感想を書くことが出来るよう進める。	品鑑い子ぶをすとみ。作鑑て様つき察こ読る。をやるやや観るでと。ワシにれ容分る。クシにれ容分る。	
ふりかえる	10分	本時の振り返り学習を振り返って、感想を書く。	グループ用ワークシートや、個人用ワークシートを参考に内容を振り返るよう促す。	本時の学習を振り返り、感想を書くことができる。十分満足できる状況とするキーワード ・意欲的に進んで努力を要する児童への手だて ・本時の学習に対して感じたことを率直に出してよいことを伝え、その感想を手掛かりに理由等を見つけたせるよう導く。	本時の活動によって学んだことを感想に書くことができる。十分満足できる状況とするキーワード ・見方や感じ方と関連させて活動の意味を考えながら鑑賞の良さを意識しながら努力を要する児童への手だて ・グループ用ワークシートや、個人用ワークシートを参考に学習の内容を振り返り、学んだことを思い出せるよう支援する。	ワシにれ容分る。クシにれ容分る。

### 研究の結果と考察

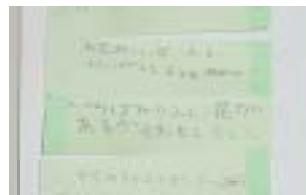
1 友達が作った造形遊びの作品を鑑賞し、それぞれが見つけた作品のよさ、美しさ、面白さを仲間分けしながら交換し合う活動を行うことは、子どもたちが、自分や友達の見方や感じ方を見つめ直しながら、多様な見方や感じ方を知るために有効であったか 事前の造形遊びで子どもたちは、「四つの世界へようこそ」「自然の音楽会」「イガイガパレード 2002」「鳥の巣のクリスマスツリー」という四つの作品を造った。子どもたちはこの中から鑑賞したい作品を選び、グループを作って鑑賞探検に出かけ、それぞれの見方や感じ方で見つけた作品のよさ、美しさ、

面白さを付箋紙に書いてワークシートの上に出し合った。

Kは「四つの世界へようこそ」を鑑賞し、「床に葉が落ちていておもしろい」「カラスウリの中に木の实が入っていてきれい」と書き、Yは「鳥の巣のクリスマスツリー」を鑑賞し、「一番上に花があるからおもしろい」「上に赤い実があるからにぎやか」と書いた(資料1)。

見つめる過程では、グループ用ワークシートに貼られた付箋紙を似ているものや違うもので仲間分けをすることを教師が伝えた。子どもたちは、早速仲間分けの作業に取りかかり、「これとこれは赤い実のことが書いてあるから同じことだよ。」「これも一緒に出来る?」「木が組み合わせてあることで書いてあるのではない?」「あるよ。」と、いったように、付箋紙に書かれたことをグループの仲間と注意深く読み合い、相談しながら、素材や技法に視点を当てて仲間分けを進めていった。書かれたことを読むだけでは意味がはっきりと分からず、書いた友達に説明を求める姿も見られた。

資料1 Yの付箋紙



Kは、初め、友達の会話を聞きながら、活動する様子をながめたり、ワークシートに貼ってあるままの付箋紙の内容を黙って読んでいたりしたが、途中から付箋紙をはがしてよく読み、友達に「これはそっちの仲間だよ。」「これって、他にないよね。」と話しかけながら仲間分けに参加するようになった。Yも、ワークシートを見ながら友達の会話に耳を傾けたり、その活動する様子を見つめたりした後、自ら付箋紙の仲間分けを始めた。この様子から、友達と、協力しながら活動に参加する中で、仲間分けの視点を知ることができ、様々なよさ、美しさ、面白さの中から共通なものや違うものを見分けることができるようになってきたと考えられる。

仲間分けの作業が進むにつれて、子どもたちは、一つの付箋紙をみんなで見合い、相談する様子が多くなった。また「これは(クリの)イガグループで。これは花グループ。」と仲間分けしたものに名前を付けていった。さらに「これは違う!これはここの方がいい。」といった、仲間分けの再吟味も行っていた。この様子から、子どもたちは様々な見方や感じ方に触れ、それぞれの視点の違いをよりつぶさに見つめながら仲間分けを行っていることが分かる。仲間分けが進まなかったグループも他のグループの活動の様子を見たり、理由の書き方を聞いたりすることにより、活発に活動するようになった。仲間分けしたい付箋紙の置き場所が分かったときの「あっ、分かった!これだ!」という喜びの声に続いて「やった!できた。分けられた。」「面白かった。きれいにできた。」「たくさん分けられた。」という声も上がった。仲間分けの作業が終わるグループがあらわれ、付箋紙もきれいに分けていた。教師は仲間分けした理由をグループ用ワークシートに書き込むように話した。

資料2 見つめる過程



子どもたちは作品を見直したり、仲間分けしたものを再び見直し、「この仲間は『ツルで巻いている仲間』っていう理由だね。」「この書き方じゃあ分からないよ。」「これは一人だけしか書いてないよ。」「一つだけのはどう理由を書けばいいんだろう?」と話し合いながら理由を書き込んだ(資料2)。

Kは、自分たちの班や他の班の友達と書き方を相談した後、自分の分担の理由を書き込み始めた。Yは同じグループの友達を書き込む様子を見たり、友達からアドバイスをもらったりすることで理由を書くことができた。この様子から、子どもたちが作品のよさ、美しさ、面白さを視点ごとに整理し仲間分けするとともに、その理由を考えるために友達との意見の交換が有効であることが分かる。

これらの活動の様子やワークシートへの書き込みから、子どもたちが付箋紙に書かれたよさ、

美しさ面白さについて、その意味を考え、どのような視点による記述かを見極めようとしていることが分かる。また、仲間分けをしたことにより、一つの作品が持つ多様なよさ、美しさ、面白さを知ることにも出来た。以上のことから、それぞれが見つけたよさ、美しさ面白さを付せん紙に書いて出し合ったものを、似ているものや違うもので仲間分けしながら交換し合う活動を行うことは、子どもたちが多様な見方や感じ方を知るために有効であったと言える。

- 2 仲間分けした作品のよさ、美しさ、面白さを発表し合う活動を取り入れ、一人一人の子どもがそのよさを分かり合いながら、多様な見方や感じ方で作品を見直すことは、作品の見方や感じ方の幅を広げるために有効であったか

広げる過程では、初めに仲間分けした結果の発表をグループごとに行った。聞く側の子どもたちは発表に耳を傾けながら、自分が大切と思った発表の内容をメモした。

K、Yもともに書き込むことができた(資料3)。友達が「わらの中にいろいろはいつている。」「木を組み立てたところ。」等、発表すると、二人とも体を伸び上げらせて作品を見てうなずいていた。この様子から、二人とも友達の発表の中から様々な見方や感じ方の楽しさを積極的に味わおうとしていることが分かる。

他の子どもたちも、友達が「橋みたいになってる。」と、発表すると、「あそこだ!」と声を上げて作品を見直していた。

グループの発表に続いて、たくさんの付箋紙が集まった仲間と一つだけの仲間の違いについて話し合ったところ、「仲間がたくさん集まったのは、みんなが分かる目立つところ。」「一個ずつしかないのものは、目立たないところ。」との意見が出た。どちらが大事かについては、「目立つところ目立たないところともに大事。目立たない方を見つけた方が面白くて楽しい。」との意見が出た。このことから、子どもたちが、それぞれの見方や感じ方のよさを認め合い、尊重していることが分かる。

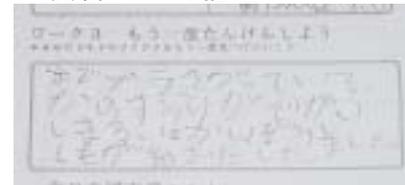
もう一度探検したいとの希望を受け再び鑑賞した。「違う作品を見てもいいですか。」「自分たちが作った作品を見てもいいですか。」との声が多く聞かれ、どの作品を見てもいいことを伝え、ほとんどの児童がすぐに自分の鑑賞したい作品を見つけて探検を始めた。

Kは、しばらく、色々な作品を見て回ったり、友達が作品について話し合っているのを楽しそうに聞いたり、友達の書いたものをのぞき込んで興味を示したりした後、「自然の音楽」という作品を鑑賞し始めた。ワークシートには「葉っぱの上に木の実が乗っていてすごい。」と書き、今日の授業の感想には「発表やよいところを見つけるのが楽しかった。」と書いた。これらの記述や活動の様子から、新たな発見を求める意欲を持ち、楽しみながら作品のよさを見つけられるようになったことが分かる。Yはしばらくの間作品を探し、「四つの世界へようこそ」のクラスウリに興味を示した。様々な角度から見ながら細かいところへの感想を友達に話し、ワークシートに資料4のように書いた。「一番上に花があるからおもしろい。」「上に赤い実があるからにぎやか。」と書いた付箋紙と比較すると、新たな作品への興味関心が高まっただけでなく、素材に対する興味関心や、形、大きさ、使い方等の視点が加わったことが分かる。

資料3 Kのメモ



資料4 Yの記述



他の子どもたちも、「太い木がバランスを取っていた。」「木の枝をツルで固定してあって鳥の巣みたい。」等、次々と新たな見方や感じ方を見つけだし、ワークシートに書き込んだ。作品のよさ、美しさ、面白さに関わる造形要素（色、形、動き、技法、構成、材料、表し方の工夫、見立て、雰囲気）における視点の変化を、1回目の探検による付箋紙の書き込みと、2回目の探検による書き込みから見たところ、資料5のような結果が得られ、25名中22名は新たな視点、視点の深まりの両方をもてた。残る3名中2名は新たな視点をもて、1名は視点の深まりが見られた。資料6のように記述が変化していることから作品のよさ、美しさ、面白さを味わっていることが分かる。活動後には、「いろんなことが分かったし楽しかった。いろいろな作品がいっぱい工夫してある。」「人の作品をたんけんしてみてもすごくおもしろかったです。自分たちが作った作品のよいところも言ってもらえてすごくうれしかったです。またできるきかいがあつたらぜひやりたいです。今日の図工をして人の作品をたんけんする事を学びました。」「発表や、きれいなところやおもしろいところをさがしたりして、とても楽しかった。」「自然となかよくすると、おもしろいものが作れることがわかった。」といった感想が出ていた。

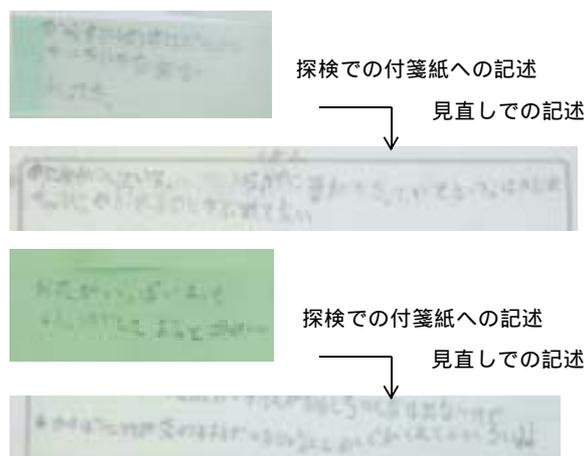
資料5 視点の変化

実施人数25人（数字は人数）

造形要素	視点の変化	新たな視点を持てた	見られた視点	新たな視点と視点の深まりの両方
色		3	3	1
形		2	2	2
動き		7	7	7
技法		1	8	9
構成		1	3	7
材料		2	1	0
表し方の工夫		1	5	1
見立て		1	4	2
雰囲気		1	8	1

これらの活動の様子やワークシートへの書き込み及び資料5から、子どもたちはいろいろな見方や感じ方に興味を持ち、新たな視点で作品を見たり、同じ視点からでもより深く見るできるようになったことが分かる。このことから、グループごとに作品のよさ、美しさ、面白さを仲間分けし、クラス内で発表したり一人一人の子どもがそのよさを分かり合い、多様な見方や感じ方を意識しながら作品を見直す活動を行ったことは、子どもたちの見方や感じ方の幅を広げるために有効であったと言える。

資料6 子ども達の記述の変化



### 研究のまとめと今後の課題

見つめる過程において、付箋紙に書いて出し合ったそれぞれの見方や感じ方を似ているものや違うもので仲間分けしながら交換し合う活動を行ったことは、自分や友達の見方や感じ方を見つめ直しながら、多様な見方や感じ方を知るために有効であったといえる。

広げる過程において、仲間分けをした見方や感じ方をクラス内で発表し、一人一人の子どもがそのよさを分かり合い、多様な見方や感じ方を意識しながら作品を見直す活動を行うことは、子どもたちの見方や感じ方の幅を広げるために有効であったといえる。

今回は、四つの造形遊びの作品を鑑賞したが、友達との見方、感じ方の違いをより明確にする事を求めるならば、一つの作品を鑑賞の対象とすることも考えられる。また、付箋紙やワークシートに自分の見方や感じ方をより豊かに書き出すために、鑑賞にかかわる表現能力の充実も図っていきたいと考える。